

よしのはら
宍道湖に葦原をよみがえらせよう！

松江分自然環境倶楽部



私たちは、豊かな自然と環境を守り、育み、そしてそれを将来に引き継いでいくことを目標に掲げ、宍道湖周辺の自然環境の再生、復元活動に取り組んでいます。
そのシンボル事業が葦原の再生、復元です。

〈所在地〉〒699-0553 出雲市斐川町黒目 松江分研修センター内

〈ホームページ〉 <http://matsuebun.org/> (または「松江分自然環境倶楽部」で検索)

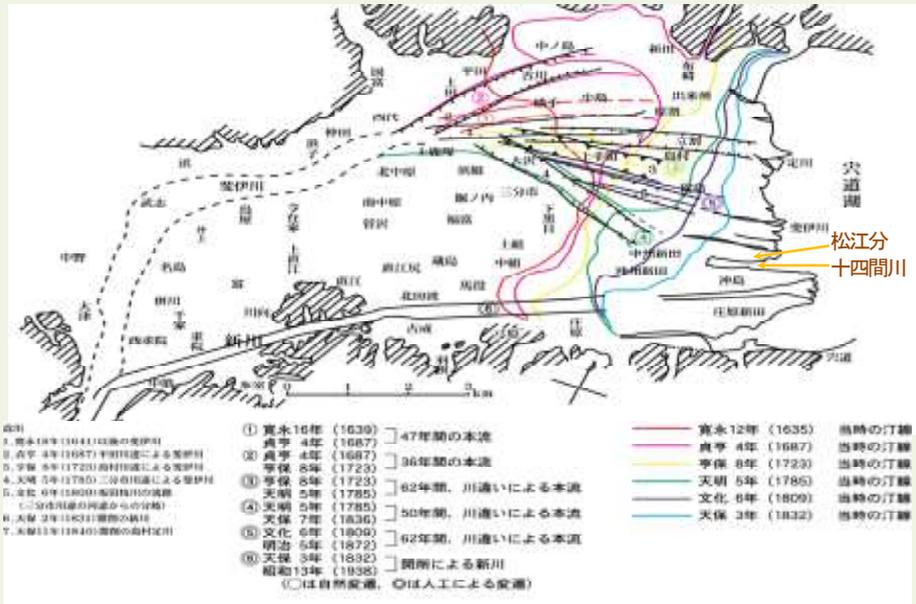
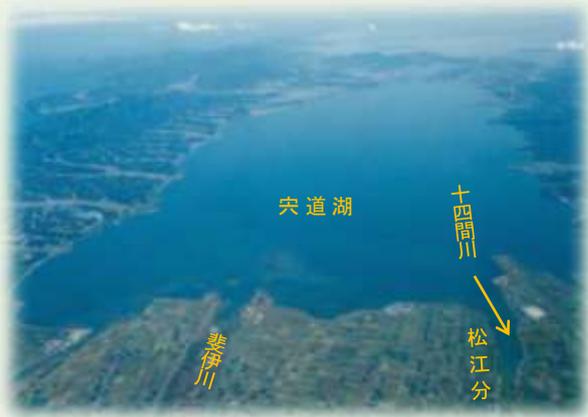
いま 松江分の歴史、現在、そして未来への夢、願い

簸川平野は、約 4000 年前は入海でした。それが斐伊川から流れる砂によって長い年月をかけて、次第に平野が形成されていきました。江戸時代の斐伊川の東流、松江藩による新川開削、川違えなどから、昭和の大規模な干拓に至るまで連続と続く開拓の歴史を経て、ほぼ現在の湖岸線となりました。

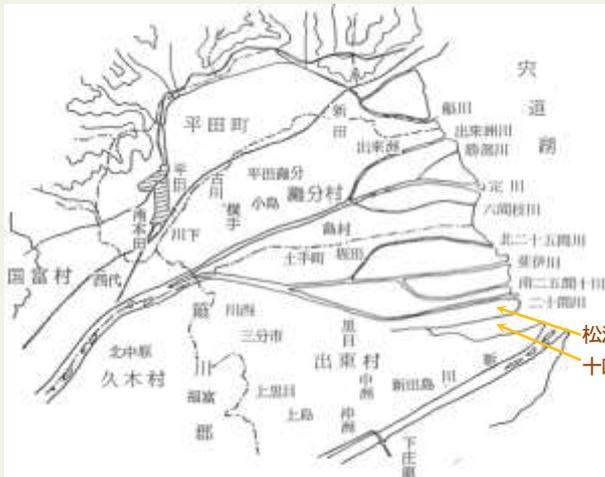
私たちの住む松江分は、簸川平野の東端、宍道湖の西岸に位置し、最も後から形成されたところです。そのため、土地は低く、地盤も軟弱で、堤防に守られて生活しています。これまで幾多の水害に遭い、近年では、昭和 47 年の豪雨において甚大な被害を蒙りました。

そして、もう一つ、除草剤などの農薬や生活排水による環境の悪化も進んでいます。それを象徴する事象が、葦の原の消滅です。また、ジミやアマサギの激減です。

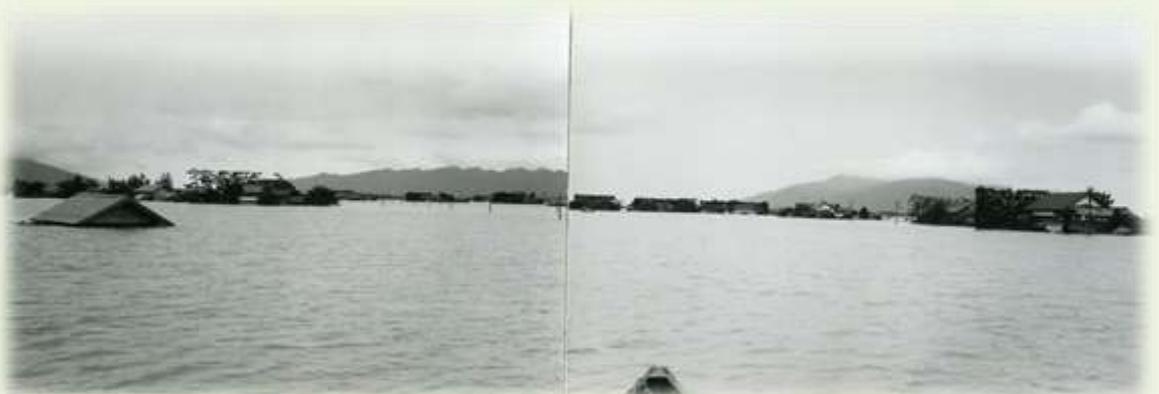
私たち松江分自然環境倶楽部は、さまざまな団体と連携しながら、生命線である堤防の保全、宍道湖をとりまく環境や水産資源の回復等に取り組み、安心して住める地域と豊かな自然を育み、そしてこれを未来に引き継いでいきたいと願い、活動しています。



斐伊川本流の変遷(斐伊川誌)



大正12年頃の斐伊川の分流(斐伊川改修40周年史)



47 水害で水没した松江分地区

私たちのこれまでの取り組み(活動内容)

I 漏水個所の見回りと漏水調査の実施



漏水個所の見回り



漏水調査

十四間川左岸堤防漏水調査データ (2011年1月～2012年4月)

調査地点 1



調査地点 2



調査データの公表(倶楽部 HP)

II 自然再生に関する講習会、講演会の開催



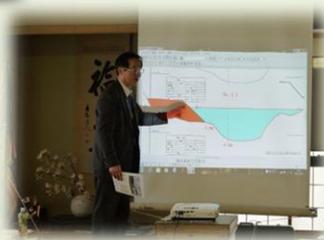
III 葦原の復元(ヨシの植栽活動)



IV 関係団体との連携、共同事業の推進



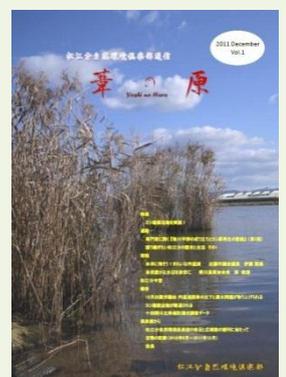
十四間川環境再生協議会設立(2012.3.30)



V 広報誌の発行、ホームページの開設



ホームページ



広報誌「葦原」

VI 貴重動植物の観察、保護



地内に自生する絶滅危惧種アサザ



ハクチョウの飛来



マガンの乱舞

私たちの挑戦(これからの取り組みの計画)

私たちは、宍道湖及びその流入河川(十四間川)の水質・底質の環境再生とその水域にすむ水生動物の環境保全を目的とし活動しています。

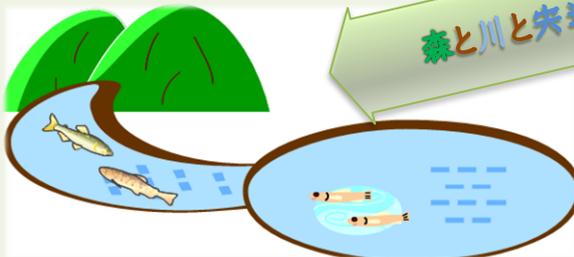
十四間川での環境再生及び水生動物の資源保全研究事業の実施

事業内容

- (1) 覆砂による土砂採取跡地の環境改善事業
 - ・ 生物多様性の創出と生育改善及びその効果の持続性検証調査
 - ・ 機能性覆砂材の効果検証調査
- (2) 宍道湖流入河川の水質浄化事業
 - ・ 飽和酸素水の供給検証調査
- (3) 陸上での飼育試験
 - ・ 飼育用餌の研究
 - ・ シジミ飼育の研究
 - ・ 機能性覆砂材の研究
- (4) 湖岸ヨシ帯再生事業
 - ・ ヨシの植生活動
- (5) 環境調査
 - ・ 水質・底泥の環境調査



環境調査(2012.4.25)



松江分自然環境倶楽部は、ふるさとの森と川と宍道湖の環境保全及び生物多様性の創出、森林・河川等における多様な自然環境をみなさんの活動と調整を図りながら体系的に保全するとともに、健全な生態系を維持・回復させ、人と自然が共生できる環境をつくりだすために活動します。